

MSSP が FortiSASE を利用すべき 3つの理由

概要

正しいベンダーの選択は、オペレーションが成功するか、自らの組織に不可欠な要素をすべて連携させる作業に追われ続けることになるかを左右する、重要な判断となります。フォーティネットは、セキュリティの有効性、コスト削減、優れたパフォーマンスの実現、品質を低下させることのない FortiSASE ソリューションを提供することで、市場の進化を常にリードしています。

フォーティネットの MSSP (マネージドセキュリティサービスプロバイダー) パートナーは、新たな収益源を創出し、マルチテナント、一元管理、詳細分析、包括的な自動化、オーケストレーションサポートを提供する、差別化されたマネージドサービスを提供することができます。

MSSP は SASE マネージドサービスの開発にあたり、以下の 3 つの重要な理由を十分に考慮する必要があります。

理由 1：マルチテナントの可視性と管理

FortiSASE MSSP ポータルは、一元的な管理と構成の機能を提供するため、MSSP は、クライアントベースにマルチテナント SASE の導入環境を効率的に展開し、管理することができます。ポータルの Organizations (組織) 機能により、複数のアカウントが組織単位の階層に統合されます。

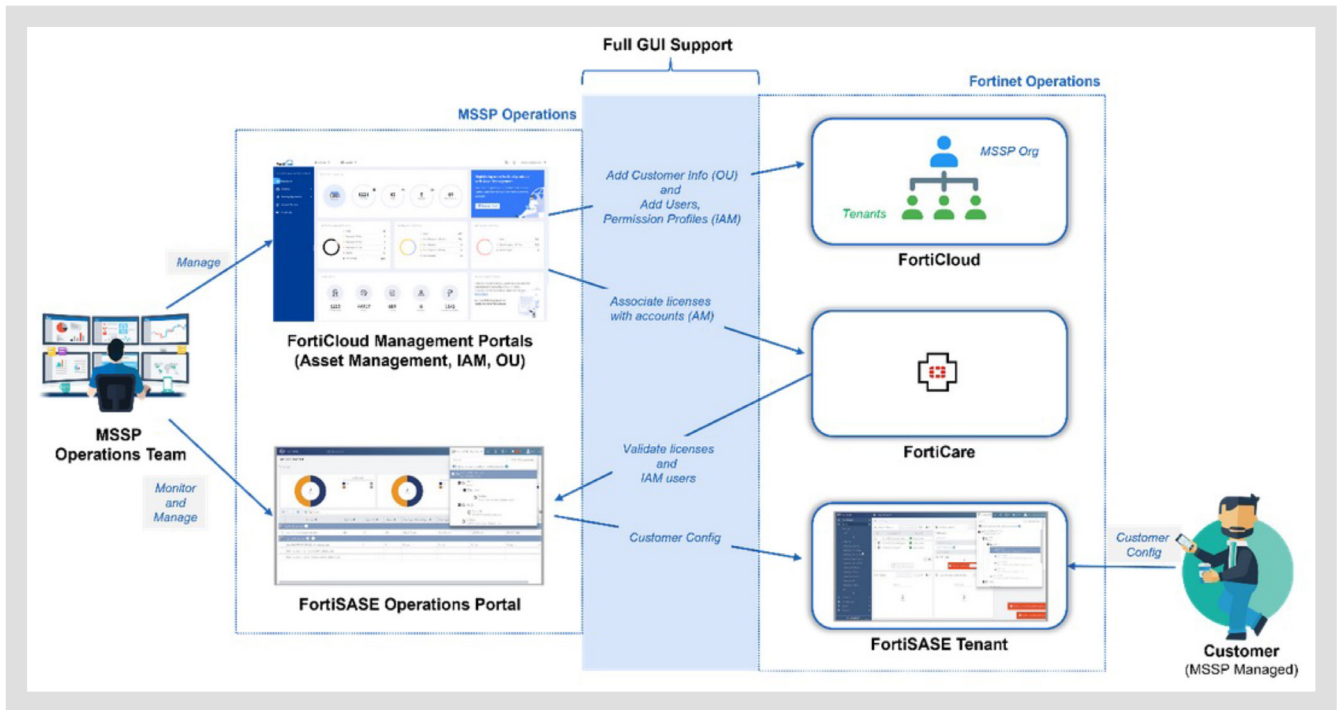
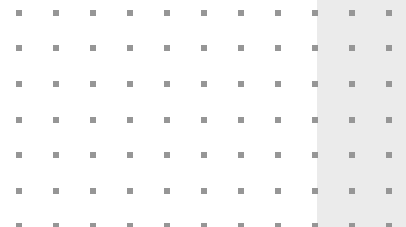


図 1：エンドツーエンドのプロセス



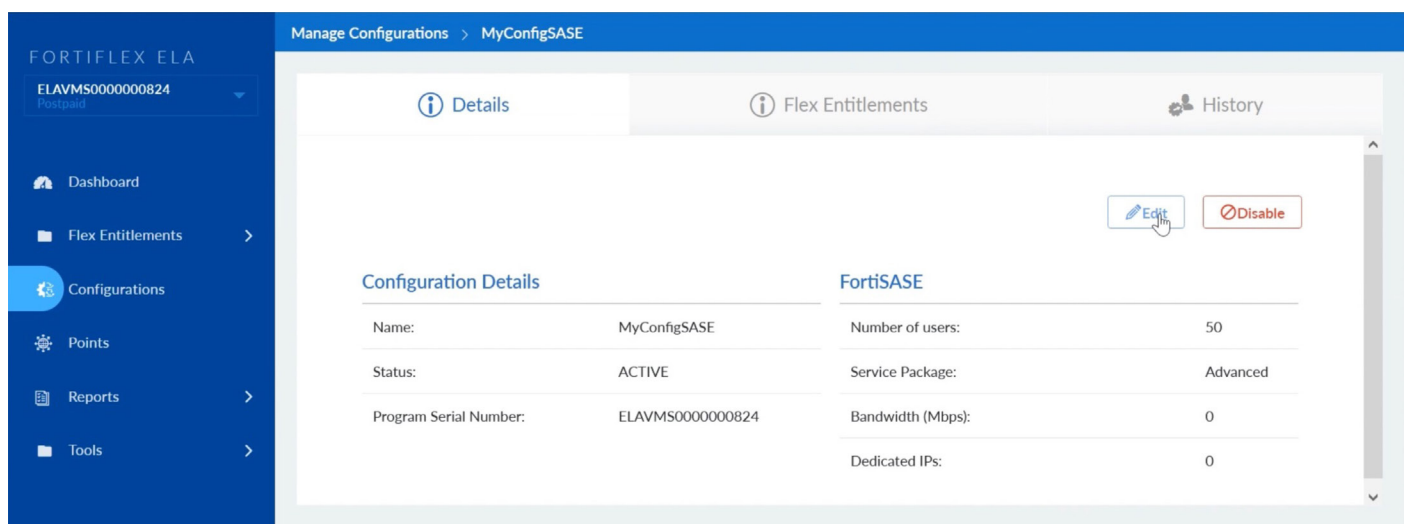
MSSP がこの一元管理のポータルからセキュリティポリシー、ネットワーク設定、ユーザーアクセスを構成することで、複数のエンドカスタマー環境で一貫性のある統一されたセキュリティが保証されます。管理者はポータルを利用して、ユーザー、ライセンスの有効期限、インスタンスごとに使用されているセキュリティ PoP (Point of Presence) の分布などのすべてのテナントデータを監視できます。

理由 2：柔軟なライセンス

新しい利用モデルである FortiFlex MSSP は、仮想セキュリティアプライアンス、セキュリティサービス、クラウドベースの管理サービスの BYOD (Bring-Your-Own-License) ライセンスにより、オンデマンド利用と従量課金型に対応します。これにより、パートナーは、調達の遅延を回避し、従来型のライセンス管理の制約を排除し、予測可能な運用コストモデルから利益を得られるようになります。

FortiFlex MSSP は、後払い方式のサブスクリプションサービスであり、この方式では、毎月の利用料金を消費クレジットで支払います。これは、MSSP パートナーだけが利用できる方法で、仮想マシンからハードウェアデバイスまでのさまざまなフォーティネットのセキュリティサービスの構成と管理に使用できます。True-Up (トゥルーアップ条項) により、使用量が少なかった場合は最低年間使用量が適用されます。

FortiFlex を前払い方式のサービスとして利用することもでき、この方式では、MSSP が FortiFlex ポイントのパッケージを購入するだけで、任意のソリューションサイズ、任意の数量、任意のサービスの導入に利用できます。FortiFlex はポイントベースのプログラムであるため、追加のソリューションやサービスが必要になるたびに調達プロセスを繰り返す必要はありません。利用量に基づくポイントを使用できるため、過剰な調達サイクルやリードタイムが不要になります。



The screenshot displays the FortiFlex ELA management interface. The left sidebar shows navigation options: Dashboard, Flex Entitlements, Configurations (selected), Points, Reports, and Tools. The main content area is titled 'Manage Configurations > MyConfigSASE' and features three tabs: Details (active), Flex Entitlements, and History. In the top right corner, there are 'Edit' and 'Disable' buttons. The 'Configuration Details' section shows:

Name:	MyConfigSASE
Status:	ACTIVE
Program Serial Number:	ELAVMS0000000824

The 'FortiSASE' section shows:

Number of users:	50
Service Package:	Advanced
Bandwidth (Mbps):	0
Dedicated IPs:	0

図 2：FortiFlex の柔軟なライセンス

理由 3：文書化された API フレームワーク

FortiSASE API を使用すると、管理者は、特定の FortiSASE インスタンスに対して技術的なオペレーションを実行できます。監視とリソースの REST API により、データの取得とシステムやネットワーク構成の変更をサポートします。REST API リクエストごとに、認証のための API トークンが必要です。

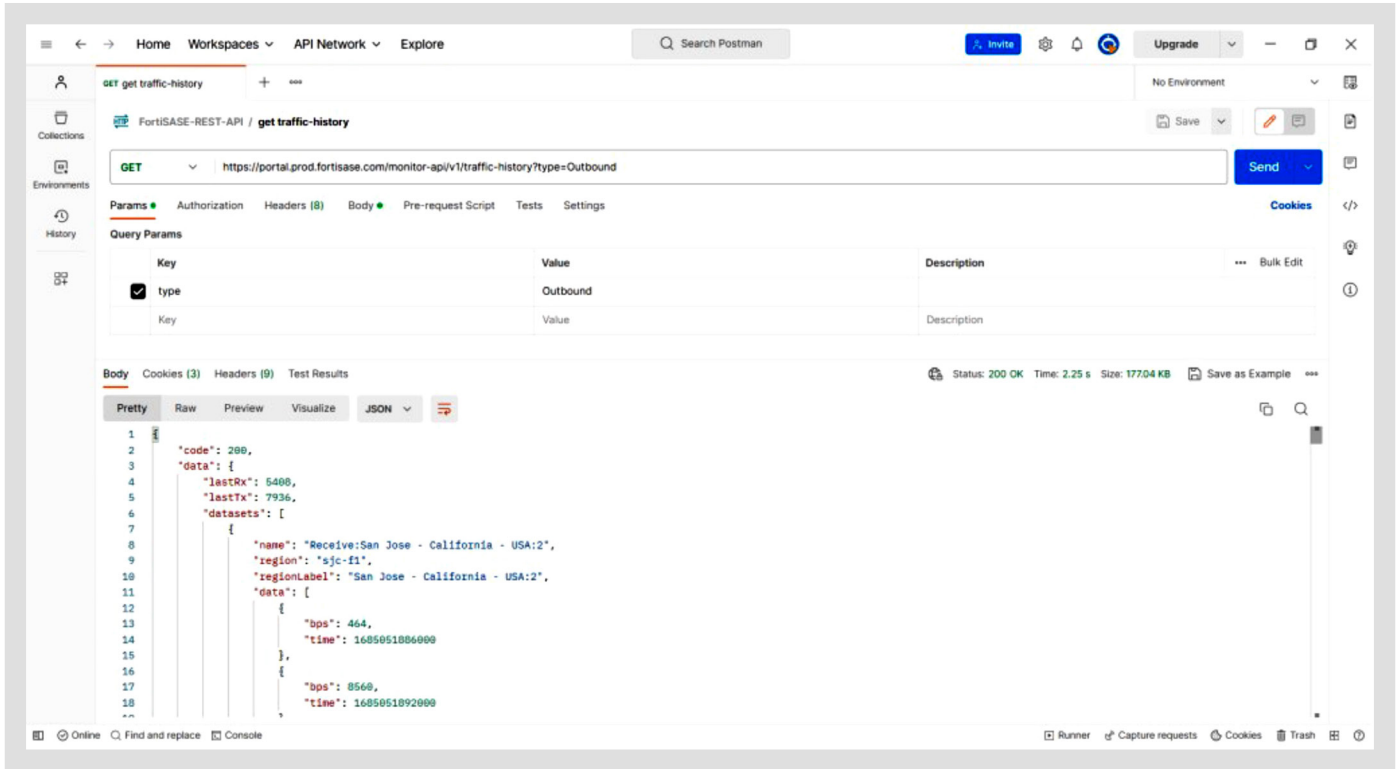


図 3：FortiSASE API

終わりに

フォーティネットの FortiSASE は、自社が提供するサービスの強化を目指す MSSP にとって魅力的なソリューションです。MSSP は、一元的なマルチテナント管理、動的なライセンスオプション、堅牢な API フレームワークを利用して、オペレーションを合理化し、リソースの割り当てを最適化し、優れたセキュリティサービスをクライアントに提供することができます。

FortiSASE を活用することで、オペレーションを効率化して新たな収益源を創出しつつ、多様なクライアント環境で包括的セキュリティが保証されます。FortiSASE を導入することで、MSSP は、ハイブリッドワークのセキュリティのオペレーションの卓越性への戦略的な移行を開始することになります。

FORTINET

フォーティネットジャパン合同会社

〒106-0032

東京都港区六本木 7-7-7 Tri-Seven Roppongi 9 階

www.fortinet.com/jp/contact

お問い合わせ